

平成30年度 佐賀県立唐津東高等学校 学校評価計画

<p><b>1 学校教育目標</b> 「自主自律」の精神を培い、知・徳・体の調和のとれた、地域や国際社会の発展に貢献する、高い知性と志を備えた、心身ともに逞しい生徒を育成する。</p>	<p><b>2 本年度の重点目標</b> ①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。 ②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。 ③教職員の教育力の向上を図り、ICT機器、特に学習用PCを効果的に活用した教育実践を一層推進するとともに、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。 ④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。</p>
--	---

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

**3 目標・評価**

①生徒一人ひとりの学力分析と中高6年間を見通した計画的な進路指導により、高いレベルでの確かな学力の定着と進路意識の高揚を図り、生徒の進路希望の実現を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	①基礎学力の定着 ②進路実現を見据えた学力の向上	○家庭学習時間を十分に確保する。3年生は平日4時間以上、1、2年生は平日3時間以上とする。 ○授業の充実を図り、国立大個別学力試験に対応できる学力を養成する。 ○難関大学受験者の掘り起こしに努め、九州大学以上の受験者数60名以上を目指す。	○授業時数の確保により、正課授業を充実させる。 ○ICT活用教材「Classi」を活用して、生徒の学習時間や生活状況を把握する。また、「面談週間」を設定し、生徒の実態把握に努めるとともに学習に対する意識高揚を図る。 ○様々な進路希望に対応した教育課程編成を行うとともに、各生徒の状況に注意を配りながら、個に応じた指導を行う。
	○進路指導	①進路実現のための学力の保障 ②進路意識の啓発と高揚 ③キャリア教育の充実	○国立大学の合格者数を165名以上とする。 ○東京大学・京都大学の合格者数を併せて3名以上、九州大学の合格者数を30名以上とする。 ○自己の適性を把握し、職業や学問の研究をし、自己の能力を最大限に活かすことができる高い志望を持たせる。 ○「総合的な学習の時間」等を利用して、主体的に考える能力を養い、新テストに対応できる学力を培う授業実践を研究していく。 ○教職員の教科指導力、進路指導力を向上させる。	○進路検討会や学力分析会を行い、進路・学年・教科との連携を図る。 ○「進路だより」「進路のしおり」を発行し、進路情報の提供に努め、生徒のチャレンジを後押しする。 ○「大学出前講座」、「九州大学訪問」、「東京研修」等を開催し、進路意識を啓発する。 ○総合的な学習の時間を中心に1年次から主体的な学びを促し、思考力・判断力を培う。 ○各教育機関主催の研修会(大学入試問題研究会や進路指導研究会等)への参加を通して、教科の指導力向上と的確な進路情報の把握に努める。

②心身ともに健やかで、チャレンジ精神のある骨太の生徒を育成するため、中高6年間の発達段階に応じた授業、学校行事、生徒会活動及び部活動等を実践する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒会活動	①積極的な学校行事、生徒会行事への参加 ②学校生活に対する創造的な態度の育成	○部活動の加入率を85%以上にする。 ○元氣あふれる挨拶ができる学校を作っていく。 ○学校祭をより創造的なものに改善していく。 ○ボランティア活動を通じて地域社会に貢献する。	○部活動の魅力や部活動紹介などを通じて伝える。HPなどを通じて部活動の活躍をPRする。 ○「あいさつ運動」などを通じて、挨拶をすることが自然であると感じる雰囲気醸成を図る。 ○新しい取り組みを生徒自ら考案することができるように時間ときっかけを与える。 ○各種ボランティア行事の連絡・広報を迅速かつ確実に行う。ボランティア活動の意義を伝える。
	●健康・体づくり	①運動習慣の改善や定着化 ②望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ③好ましい睡眠リズムの定着化	○規則正しい生活を保てるよう、家庭の協力を得ながら自ら考え、行動できるよう手助けをする。	○中学との連携を深め、継続的な指導を図る。 ○家庭科・保健の授業で正しい知識を身に付け、実行できる能力を高める。 ○保護者会などで呼びかけ、家庭での生活の見直しをしてもらい、生徒自身が行動するよう見守ってもらう。
	●いじめの問題への対応	①いじめのない学校環境づくり	○いじめを許さない雰囲気づくり、人権意識の高揚と生命尊厳を推進し、いじめの件数0を目指す。	○学年、全校集会等で呼びかけ、生徒に対して「絶対にいじめを許さない態度」を身につけさせる。また、家庭や地域においても、意識の共有を図る。 ○毎学期アンケート調査を実施することで、生徒の実態を把握し、いじめの早期発見を心掛ける。 ○情報モラル教育をさらに充実させ、情報社会における正しい考え方や態度を身につけさせる。
	●心の教育	①生命や人権を尊重する意識の高揚 ②ボランティア活動の推進とゴミの持ち帰りの徹底	○集会や、講演会などを通じ生命尊重・人権意識の高揚を行う。 ○教育相談連絡会や特別支援教育校内委員会を定期的に実施し、職員の共通理解を図る。 ○清掃ボランティア活動を通して、奉仕の精神を養う。 ○清掃活動を充実し、ゴミの持ち帰りを徹底させる。	○交通マナーや挨拶の励行で、品位、品格のある態度を身につけさせる。 ○支援を要する生徒への素早い対応を行う。 ○校内研修会を実施し、支援への知識を深める。 ○校内美化に努め、日々の清掃活動を自主的に行う態度を身につけさせる。
	○生徒指導	①ルールやマナーを守ることの徹底	○規範意識の高揚と生徒心得の周知・徹底を行い、生徒指導措置件数0を目指す。	○ホームルームや集会等でルールやマナーを守ることについての啓蒙を行う。 ○各学期毎の考査最終日に集会を行い、服装・頭髪検査を実施する。
	○読書指導	①読書習慣の確立	○朝読書を通年で実施し、内容を充実させる。 ○図書貸し出し冊数、一人当たり年間5.0冊以上を目指す。	○朝の読書を利用し、読書の習慣を身につけさせ、1人当たりの貸出冊数の増加につなげる。 ○図書館の蔵書の見直しを行い、情報収集しやすい環境を整える。 ○図書館だより・新聞紹介、企画展示などによる情報発信を積極的に行う。 ○図書委員会を活性化させ、利用者数増加につなげる。

③教職員の教育力の向上を図り、学習用PC、電子黒板等のICT機器を活用した教育を推進し、効率的な学校運営による組織力の強化を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	①ICT活用教育技術の向上 ②ICT活用教育教材の研究 ③ICT機器利用の促進	○教育情報化推進リーダーを中心とした研修を実施する。 ○ICT活用の技術習得のための研修会への参加促進。 ○授業におけるICT機器の利用促進。	○学期に1回の全体研修(基本スキル・先進校の取り組み紹介)を行う。 ○教育センター研修等への積極的な参加を促す。 ○特に教師間授業参観週間ではICT機器利用の広報をする。
学校運営	●業務改革・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化促進	○学校行事等、校務の精選を推進する。 ○自発的時間外勤務を削減する。	○各分掌・学年で、主催する行事・企画等について協議し、優先順位の低いものを見直す。 ○部活動について、効果的かつ十分な休養日を設定する。

④保護者や地域社会の信頼に応え、本校教育の取り組みへの理解を促進するため、広報活動や教育活動の情報発信を活発化する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	①広報活動の推進 ②公開授業等の推進	○学校広報誌「鶴翼」の効果的な発行 ○公開授業を各学期ごとに実施 ○国際交流事業の充実	○ホームページ更新の頻度を上げ、タイムリーな情報発信を行う。また学校広報誌「鶴翼」を月1回の発行と限定せず効果的なタイミングに発行し、保護者にも学校行事等に興味を持っていただくよう努める。 ○公開授業に参加しやすいように、土日開催とし、小中学校等、広く案内を出す。 ○国際交流の際のイベントの充実を図る。
	○学校経営方針	①重点目標の周知 ②職員の共通理解と実践	○学校経営ビジョンや重点目標を理解してもらうため保護者会総会への出席率を70%以上とする。 ○中高一貫校の成果と課題を検証し充実を図る。	○学校広報誌「鶴翼」や学校ホームページ、振興会総会において、周知を図る。 ○成果と課題について検討会を実施し、指導法の深化と共有化を図る。

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校事務	①学習環境の改善 ②施設・整備の充実 ③県民満足度の向上	○予算の効率的な執行を図る。 ○安心・安全な学習環境の保持を目指す。 ○信頼される事務室を目指す	○各分掌からの予算要望に対するヒアリング、調整を行い効率的かつ教育効果の高い予算執行を行う。また、公用車の利用促進に努める。 ○定期的な施設の点検を行い、危険箇所の発見、環境整備に努める。 ○窓口、電話対応等においては迅速に行う。担当者不在時にも対応ができるよう、事務室内で情報の共有を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目